

# シェイクスピアにおける修辞法の研究

## ～ *The Taming of the Shrew*における反復技法について

古庄 信

### はじめに

去る2013年5月、本学にて、昨年で7年目を迎えた英国劇団ITCLによる「じゃじゃ馬馴らし」公演（*The Taming of the Shrew*、以下SHRと略）が行われた。これを機に著者の担当科目である英語演習やゼミ、学習院生涯学習センターにおける講座などにおいて本作品をあらためて読み直す機会が与えられた。これまでシェイクスピア作品を修辞技法の観点から分析してきたが、本作品においてもいくつかの特徴が観察された。それは副題にも示したように特に反復技法において顕著であるように思われる。そこでこの用法の主な要素である‘repetition’、‘parison’、‘anaphora’をはじめとし、その他‘rhyme’、‘alliteration’などにも注意しながらこれらの分布状況を詳細に分析してみたい。テキストはこれまで同様、*The Riverside Shakespeare*<sup>1)</sup>を使用し、また反復技法についての参考文献としてはBrook<sup>2)</sup>を主な拠り所とする。また各用例については、本文末のFrequency Survey（以下、FSと略）を参照されたい。

### 1. Repetition

SHRにおけるrepetitionの発生件数は全部で45例見られる。FSにおけるrepetitionの用例を反復回数、反復の構成要素（文・語句など）に分けると、下のTable 1のとおりである。表内の縦列は反復回数を、横列は構成要素（s: sentence; n: noun; n.ph: noun

Table 1.

	s	n	n.ph	a	a.ph	v	v.ph	adv	voc	int	Total
2	6	2	2	0	1	1	1	2	1	1	17
3	9	4	2	1	0	2	0	0	1	1	20
4	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	5
5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Total	18	7	4	1	1	3	1	3	5	2	45

phrase; a: adjective; a.ph: adjective phrase; v: verb; v.ph: verb phrase; adv: adverb; voc: vocative; int: interjection) を各々示す。反復回数でいえば、最低反復数2回が17例、3回が22例。その他4回 (noun 1例、vocative 2例)、5回 (adverb 1例)、6回 (sentence 1例)、9回 (vocative 1例) などが見られる。また構成要素でいえば、2回、3回の用例とも圧倒的にs (文単位) の反復が多く見られる。ここでは文単位の3回の例をprose, verse各々 1例ずつ例証する。(他の用例の発生個所についてはFSを参照。)

- (1) *Grumio*. ... and **she knew** him as well as I do,  
**she would think** scolding would do little good upon  
him. **She may perhaps call** him half a score knaves or so.  
(1. 2. 108-110)

- (2) *Petruchio*. **What digs are these? Where is the rascal cook?**  
**How durst you**, villains, bring it from the dresser  
And serve it thus to me that love it not? (4. 1. 162-164)

## 2. Parison

「いくつかの句や説が対応した構造をもつ」parison (類節並列)<sup>3)</sup> の例は本作品では68例見られた。これはこれまで観察してきたシェイクスピアの作品中で最も多い用例数である。<sup>4)</sup> Table 2から明らかなように、反復回数としては3回の例が全体の半分近くを占めている。3回や2回の反復ほど多くはないが、4回の反復例も1. repetitionの場合同様、他の作品よりも多く見られる。また用例数は1、2回だが7～13回の反復例も見られる。反復要素としては、文単位や名詞句、次いで形容詞 (句) が最も多く用いられている。以下、その最多の例として、文単位、名詞句、形容詞句の3回の例を、またwithに導かれて13回繰り返されている前置詞句の例を1例ずつ挙げる。(他の用例の発生個所についてはFSを参照。)

- (3) *Lord*. Let **one** attend him with a silver basin  
Full of rose-water...,  
**Another** bear the ewer, **the third** a diaper,... (Ind. 1. 55-57)

- (4) *Gremio*. Then at my farm  
I have **a hundred milch-kine to the pail,**  
**Six score fat oxen standing in my stalls,**  
And **all things answerable to this portion.** (2. 1. 356-359)

- (5) *Katherina*. And dart not scornful glances from those eyes,  
To wound **thy lord, thy king, thy governor**.  
It **blots thy beauty**, as frosts do bite the meads,  
**Confounds thy fame**, as whirlwinds shake fair buds,  
And **in no sense is meet or amiable**. (5. 2. 138)

- (6) *Biondello*. Why, Petruchio is coming..., **with** a broken  
hilt, and chapless; **with** two broken points; his horse  
hipp'd, **with** an old mothy saddle and stirrups of no  
kindred; besides, posses'd **with** the glanders and...  
troubled with the lampas, infected **with** the fashions, full  
of windgalls, sped **with** spavins, ray'd **with** the yellows, ...  
stark spoil'd **with** the staggers, begnawn **with** the  
bots,...and shoulder-shotten,...and **with** a half-cheek'd  
bit... and now repair'd **with** knots;... and here and there  
piec'd **with** packthread. (3. 2. 47-63 p)

Table 2.

	s	n	n.ph	a	a.ph	v.ph	p	p.ph	Total
2	7	1	5	0	0	1	3	0	17
3	9	3	11	4	4	1	0	1	33
4	1	0	3	0	0	3	0	1	8
5	2	0	2	1	0	0	0	0	5
7	0	0	1	0	0	0	0	0	1
10	0	0	2	0	0	0	0	0	2
11	1	0	0	0	0	0	0	0	1
13	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Total	20	4	24	5	4	5	4	2	68

### 3. Hypallage

「いくつかの関連ある概念を列挙する際に、適切な対応語を分離させる」hypallage (代換法)<sup>5)</sup> は本作品で17例見られる。下のTable 3の数値からも明らかのように、この用法においても、最も頻繁に見られるのは3回の反復例である。また反復される構成要素も2のparisonの場合と同様、名詞(句)において最も多くみられる。以下、名詞(句)と形容詞によって構成される3回の反復例を示す。これらは全て3回の反復が“A-B-and-C”というパターンである。(他の用例の発生個所についてはFSを参照。)

- (7) *Baptista*. And for I know she taketh most delight  
In **music, instruments, and poetry**, ... (1. 1. 93)
- (8) *Katherina*. Whilst thou li'st warm...  
And craves no other tribute at thy hands  
But **love, fair looks, and true obedience** – (5. 2. 151-153)
- (9) *Petruchio*. ... I thank you all  
That have beheld me give away myself  
To this most **patient, sweet, and virtuous** wife. (3. 2. 193-195)

Table 3.

	n	n.ph	a	a.ph	v	Total
2	0	1	0	0	0	1
3	3	3	2	1	1	10
4	1	1	1	0	1	4
5	0	0	1	0	0	1
7	0	1	0	0	0	1
Total	4	6	4	1	2	17

#### 4. Anaphora

韻文の各行頭で2行以上にわたって同じ語が用いられる技法である「首句反復」(anaphora)は本作品で50例見られる。反復の最低回数である2回(2行)の例が45例と最も多く、3回の反復が4例、4回の反復が1例見られた。過去に調査した作品と比較すると、この技法については、本作品ではかなり頻繁に用いられているといえよう。ちなみに1H6では21例、<sup>6)</sup> OTHで23例、<sup>7)</sup> MVで46例、<sup>8)</sup> MACでは12例のみであった。<sup>9)</sup>

首句に最も頻繁に用いられる語は‘And’で2回と3回の反復で見られた。従って、本作品での「首句反復」の使用傾向は、MVにおけるそれと似ているといえよう。その他はTable 4に見られるように名詞、代名詞他、様々で、‘And’以外は、特にどの語または品詞において多用されるとは言い難い。以下、2回、3回、4回の各例を示す。(他の用例の発生個所についてはFSを参照。)

- (10) *Lord*. **Thou** art a lord, and nothing but a lord.  
**Thou** hast a lady far more beautiful... (Ind. 2. 61-62)
- (11) *Hortensio*. **And** yet I'll promise thee she shall be rich,

**And** very rich. But th' art too much my friend,  
**And** I'll not wish thee to her. (1. 2. 62-64)

(12) *Petruchio*. Will we return unto thy father's house,  
 And revel it..  
**With** silken coats and caps, and golden rings,  
**With** ruffs and cuffs, and fardingales, and things,  
**With** scarfs and fans and double change of brav'ry,  
**With** amber bracelets, beads, and all this knav'ry. (4. 3. 53-58)

Table 4.

	And	I	My	Thou	Thy	You	He	Her	Mada	Vince	Padua	As	O	Ay	What	Good	Happy	That	Thoug	Have	In	With	The	To	Total
2	13	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	1	3	1	1	2	1	1	1	0	1	2	45
3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
Total	17	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	1	3	1	1	2	1	1	1	1	1	2	50

## 5. Rhyme

韻文において2行ごとに行末の語が韻を踏むhoo-rhymeは本作品で47箇所（95行）において観察される。これらのうち1) 1. 2. 279-280、2) 2. 1. 402-403、3) 2. 1. 410-411、4) 4. 2. 120-121、5) 5. 2. 188-189の5例が場面転換を示す '*Exit/Exeunt*' に対応するものである。参考までに1H6では 98箇所、<sup>10)</sup> OTHで11箇所、<sup>11)</sup> MVで42箇所、<sup>12)</sup> MACで37箇所（184行）、<sup>13)</sup> であった。またrhyme-endingの音としては/ei/, /əʊ/が各々 5例見られる以外は、特にいずれかの語（音）に偏った傾向はみられない。ここでは/ei/, /əʊ/の2例を挙げるにとどめる。（他の用例の発生個所についてはFSを参照。）

(13) *Petruchio*. [*Sings*.] "It was the friar of orders **grey**,  
 As he forth walked on his **way**" –  
 Out, you rogue, you pluck my foot **awry**. (4. 1. 145-147)

(14) *Hortensio*. The motion's good indeed, and be it **so**,  
 Petruchio, I shall be your *ben* **venuto**. *Exeunt*. (1. 2. 279-280)

## 6. Alliteration

語頭に同じ音をもつ語を一行中に連続して並べる技法であるalliterationの例は本作品で81例見られる。うち6例は散文における例である。これらの環境をIPA<sup>14)</sup>に基づいて

分類するならば次のTable 5のとおりである。

Table 5.

	plosives						fricatives			lateral	nasals		semi-v		diphth.	Total
	/p/	/b/	/t/	/d/	/k/	/g/	/f/	/s/	/h/	/l/	/m/	/n/	/w/	/sk/	/ei/	
2	4	2	2	1	8	2	8	9	2	4	13	1	4	1	1	62
3	0	1	1	1	1	4	2	3	0	1	4	0	0	0	0	18
4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
Total	4	3	3	2	9	6	10	13	2	5	17	1	4	1	1	81

Table 5に見られるように、alliterationを起こす環境はplosivesの/k/, /g/, fricativesの/f/, /s/, lateralの/l/, nasalの/m/に集中していることがわかる。これはこれまで調査した他の作品においても、およそ同様の現象が見られた。以下、これらの6種類の音について1例ずつ挙げる。(他の用例の発生個所についてはFSを参照。)

(15) /m/ *Katherina*. What, did he **marry me** to famish **me**? (4. 3. 3)

(16) /s/ *Lucentio*. **Sacred** and **sweet** was all I **saw** in her. (1. 1. 176)

(17) /f/ *Lucentio*. **Fiddler, forbear**, you grow too **forward**, sir. (3. 1. 1)

(18) /f/ *Hortensio*. it shall be so **far forth friendly** maintain'd...  
(1.1.136 p)

(19) /k/ *Petruchio*. A **combless cock**, so **Kate** will be my hen.  
Katherina. No **cock** of mine, you **crow** too like a **craven**.  
(2. 1. 226-227)

(20) /k/ *Biondello*. ...a pair of boots that have been **candle-cases**,...  
(3. 2. 45 p)

(21) /g/ *Tranio*. We'll overreach the **greybeard, Gremio**,... (3. 2. 145)

(22) /g/ *Katherina*. **Go get** thee gone, thou false deluding slave,...  
(4. 3. 35)

- (23) /1/ *Hortensio*. That so I may...  
Have **leave** and **leisure** to make **love** to her,... (1. 2. 136)

## 7. Parallel of symmetrical phrase

以下の4例は2. parisonや3. hypallageの用例とすべきかもしれないが、対称的な意味を表す語句が各々平行に並べられていることから、このような仕分けに分類してみた。下に示す例(24)では“Too little payment”と“so great a debt”が、(25)では“war”と“peace”が、(26)では“rule, supremacy, and sway”の3語と“to serve, love, and obey”の3語が、(27)では“our lances... straws,/Our strength... weak, our weakness...”など、反意語(antonym)同士が各々左右対称に配置されており、「女性が男性に対して負うべきものがいかに大きいか、男女が睦みあうべきときに争いあうことのいかに愚かしいことか、女性の主張する強さがいかに脆いものか」を妹Biancaや未亡人に諭すKatherinaのスピーチに説得力を与える大きな要因となっている。特に(26)ではhypallage, alliteration, rhymeが複合的に組み合わせられており、この部分のセリフが、意味だけでなく音響的にも優れた配列であることがわかる。

- (24) *Too little payment for so great a debt* (5. 2. 154)

- (25) To offer *war* where they should kneel for *peace* (5. 2. 161)

- (26) Or seek for *rule, supremacy, and sway*  
When they are bound to *serve, love, and obey* (5. 2. 163-164)

- (27) *our lances* are but *straws*,/Our strength as *weak, our weakness*...  
(5. 2. 173-174)

## まとめ

SHRにおける修辭技法についての観察結果をここで再度簡単にまとめるならば、次のとおりである。

- 1) Repetition : 全用例数45例のうち、反復回数でいえば、最低反復数2回が17例、3回が22例と、3回の発生件数が2回のそれを上回っていた。その他4回、5回、6回、9回などの例も見られたがいずれも1例ずつである。また反復を起こす構成要素でいえば、2回、3回の用例とも圧倒的にs(文単位)の反復が多く見られた。その他とし

ては名詞（句）、形容詞、呼格（vocative）などが若干数見られた。

- 2) Parison：この用法は本作品では68例見られた。これはこれまで観察してきたシェイクスピアの作品中で最も多い用例数である。これは、前回までの調査において、parisonの例として分類すべき用例をrepetitionの例としてカウントしていたことが理由である。したがってparisonはあくまでrepetitionの下位項目として新たに見直す必要がある。反復回数としては3回の例が全体の約50%で、repetitionの場合に比べ、より優性であるといえる。4回の反復例も repetitionの場合同様、他の作品よりも多く見られる。また用例数は1、2回だが7～13回の反復例も見られた。反復要素としては、文単位や名詞句、次いで形容詞（句）が最も多く用いられていた。
- 3) Hypallage：SHRで17例見られたが、この用法においても、最も頻繁に見られるのは3回の反復例であった。また反復される構成要素もparisonの場合と同様、名詞（句）において最も多くみられる。また用例（7）～（9）において示したように3回の反復例はすべて“A-B-and-C”というパターンである。
- 4) Anaphora：本作品で50例見られたが、2回（2行）の例が45例と最も多く、3回の反復が4例、4回の反復が1例という結果であった。過去に調査した作品と比較しても、かなり頻繁に用いられていることがわかった。また首句に最も多く用いられる語は‘And’で2回と3回の両方の反復で見られた。従って、本作品での「首句反復」の使用傾向は、MVにおけるそれと似ているといえよう。その他は名詞、代名詞他、様々で、‘And’以外は、特にどの語または品詞において偏った傾向があるとはいえない。
- 5) Rhyme：本作品で47箇所（95行）において観察されたが、これらのうち5例のみが場面転換におけるマーカーとして用いられ、他の大部分は、幕間のものである。これまでに調査した他の作品と比較した場合、MVの42例と最も近い結果であった。またrhyme-endingの環境としては/ei/, /əʊ/が各々 5例見られたが、それ以外では特にいずれかの語（音）に偏った傾向はみられない。
- 6) Alliteration：Brookは「中世詩において盛んだった頭韻はシェイクスピアでは廃れた」<sup>14)</sup>と述べているが、それでも本作品では81例見られ、用例数では修辞技法の用例数中、最も多かった。Alliterationを起こす環境はplosivesの/k/, /g/, fricativesの/f/, /s/, lateralの/l/, nasalの/m/に集中しており、これまで調査した他の作品の場合とおよそ同様の現象であった。



- 7) Parallel of symmetrical phrase : スピーチの内容に説得力を増す要因として、対称的な意味を持つ反意語同士がシンメトリカルに配置される構造が用例 (24)～(27) において観察された。特に(26)ではhypallage, alliteration, rhymeの要素が複合的に組み合わせられており、本作品中、Shakespeareが主人公のKateに語らせるフィナーレのセリフとして、観客に聴かせるため、高度な修辞技巧を駆使したことが想像できる。

以上、SHRにおける修辞技法について種類別に観察したが、これまでの調査と合わせて、著者の主張の中心は、シェイクスピアが「聴かせる」工夫として反復 (repetition) を多用した、そしてその多くの反復は「三回」ではなかったか、ということにある。ちなみにSHRも他の作品同様、舞台や映画作品としてこれまで何度も脚本化されてきたが、ミュージカル版として有名な映画*Kiss Me Kate*<sup>16)</sup> のタイトルは、原作中のセリフから取られていることは言うまでもない。ではその“Kiss me, Kate.”は原作中、主人公Petruchioによって何度口にされているか？ 答は1) 2幕1場324行、2) 5幕1場143行、そして 3) 5幕2場180行、の三度である。

#### Notes

- 1) *The Riverside Shakespeare*. (参考文献目録を参照)
- 2) Brook の *The Language of Shakespeare*. 本文中で使用する Shakespeare 作品の略称については Spevack の Harvard Concordance に準じる。いずれも参考文献目録を参照。
- 3) この用語については Brook の chapter 9, § 406 を参照。
- 4) 1H6 で 11 例。うち 2 回の反復が 6 例、3 回が 4 例。本学紀要第 10 号、p. 104 参照。OTH では 26 例中、2 回が 9 例、3 回が 13 例。本学紀要第 13 号、p. 187 参照。MV の repetition の 212 例中、および MAC の repetition の 188 例のうち相当数が parison を含むものと推定される。これらについては再考が必要である。各々、本学紀要第 14 号および 15 号の該当ページを参照。
- 5) この用語については Brook の chapter 9, § 402 を参照。
- 6) 1H6 では 21 例見られた。本学紀要第 10 号、p. 103 参照。
- 7) OTH では 23 例。本学紀要第 13 号、p. 183 参照。
- 8) MV で 46 例。本学紀要第 14 号、p. 116 参照。
- 9) MAC では 12 例。本学紀要第 15 号、p. 159 参照。
- 10) 本学紀要第 10 号、p. 103 参照。
- 11) 本学紀要第 13 号、p. 181
- 12) 本学紀要第 14 号、p. 114. ここでも And の例が 14 例と最も多く用いられている。
- 13) 本学紀要第 15 号、p. 157
- 14) International Phonetic Alphabet. 1886 年創設された国際音声学会によって制定された。
- 15) “In medieval times alliteration was an important structural feature of verse, but by the time of Shakespeare it had become an ornament.” Brook, chapter 9, § 396 参照。
- 16) Cole Porter 作のプロードウェイミュージカル。1948 年初演。1953 年 George Sidney 監督、Kathrin Graison, Howard Keel 主演の映画作品は特に有名。

#### 参考文献

Abbott, E. A. *A Shakespearean Grammar*. Macmillan. 1929.

- Brook, G. L. *The Language of Shakespeare*. Andre Deutsch. 1976.  
Booth, Stephen. *Shakespeare's language and the language of Shakespeare's time*.  
Palfrey, Simon. *Doing Shakespeare*. The Arden Shakespeare, Thomson. 2005.  
Thomas A. Pendleton. *Henry VI Critical Essays*. Routledge. 2001.  
McDonald, Russ. *Shakespeare and the Arts of Language*. Oxford University Press. 2001.  
Schmidt, Alexander. *Shakespeare Lexicon and Quotation Dictionary*. Vol. 2. Dover. 1971.  
Spevack, Marvin. *The Harvard Concordance to Shakespeare*. Georg Olms. 1970.  
*The Riverside Shakespeare*. Edited by G. Blakemore Evans, Houghton Mifflin, 1974.  
*The Complete Pelican Shakespeare*. Edited by Alfred Harbage. The Viking Press. 1969.  
*The Oxford English Dictionary*.  
G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』三輪伸治他訳 松柏社. 1998.  
青木敦男・古庄 信共編『藤原博先生追悼論文集－見よ野のユリはいかに育つかを』英宝社. 2007

(本学教授)

## Frequency Survey in *SHR*

**Repetition** freq: 45. n: noun; n.ph: noun phrase; a: adjective; a.ph: adjective phrase; adv: adverb;  
voc: vocative; s: sentence; int: interjection. (p= example in prose)

1	1.2.108-110	3	s
2	1.2.203-209	4	s
3	2.1.170-175	4	s
4	2.1.177-179	2	s
5	3.1.28-29	3	s (L)
6	3.1.31-34	3	s (L)
7	3.2.4-7	3	s What
8	3.2.88-89	2	s
9	3.2.90-91	2	s
10	3.2.145-147	3	n.ph
11	3.2.155	3	n
12	3.2.156	3	n
13	3.2.164	2	n.ph
14	3.2.183	2	int
15	3.2.198-200	3	s
16	4.1.2-3 p	3	s
17	4.1.106-109 p	4	voc
18	4.1.111-112 p	4	voc
19	4.1.122	3	n
20	4.1.123-124	6	s
21	4.1.129	2	voc
22	4.1.133-136	2	s(2×2)
23	4.1.136	3	n.ph
24	4.1.142	4	n
25	4.1.149-155	3	2s×3
26	4.1.162-163	3	s
27	4.1.184	3	v
28	4.2.54-55	2	n.ph
29	4.2.73-75	5	adv.
30	4.3.107-109	9	voc
31	4.3.111	3	voc
32	4.3.123-125 p	2	v-not
33	4.3.139-143	3	s
34	4.3.145 p	2	a.ph
35	4.3.163	3	int
36	4.5.10	3	a
37	4.5.24	2	adv
38	5.1.59 p	3	v
39	5.1.79 p	2	s
40	5.1.84 p	2	adv
41	5.2.59	2	v
42	5.2.81-82	2	s
43	5.2.106-107	3	n
44	5.2.172	2	n
45	5.2.172	2	n

**Parison** s: sentence; n: noun; n.ph: noun phrase; v.ph: verbal phrase; a: adjective; a.ph: adjectival phrase  
p: preposition; p.ph: prepositional phrase Ind.= Induction

1	Ind. 1.55-57	3	s
2	Ind. 2. 2-4	3	s
3	Ind. 2. 9-10 p	3	n.ph
4	Ind. 2.19-20	4	p.ph
5	Ind. 2. 22	2	s
6	Ind. 2. 26-27	2	s
7	Ind. 2. 35-44	4	s
8	Ind. 2. 68-69	3	s
9	Ind. 2. 70-71	5	s
10	Ind. 2. 91-92	3	n.ph
11	1.1.6-7	3	n.ph
12	1.1.11	2	n.ph
13	1.1.30	2	n.ph
14	1.1.31	2	n.ph
15	1.1.33-37	7	n.ph
16	1.1.53	2	v.ph
17	1.1.144-145	4	v.ph
18	1.1.155	3	s-v
19	1.1.157-158	2	s-v
20	1.1.204-205	4	n.ph
21	1.1.228-230	4	n.ph
22	1.2.40-42	4	v.ph
23	1.2.69-71	3	a.ph
24	1.2.85-86	3	a
25	2.1.117	2	n
26	2.1.193	2	n.ph
27	2.1.134	2	s
28	2.1.243	3	a
29	2.1.245	3	a
30	2.1.323	3	n
31	2.1.336	2	s
32	2.1.351-355	10	n.ph
33	2.1.357-359	3	n.ph
34	3.1.42-45	5	s(-v-not)
35	3.2.16	3	v.ph
36	3.2.47-63	13	p
37	3.2.66-67 p	2	p
38	3.2.105	2	s
39	3.2.117	2	p
40	3.2.120	2	p
41	3.2.230-233	10	n.ph
42	4.1.6-8 p	5	n.ph
43	4.1.73-81 p	11	s
44	4.1.90-95 p	4	v.ph
45	4.1.126	3	n.ph
46	4.1.137	3	a
47	4.1.185	3	a.ph
48	4.1.193-194	3	a.ph
49	4.1.198	3	s
50	4.1.201-202	4	n.ph
51	4.2.64-66	3	p.ph
52	4.3.151-152 p	3	s
53	4.3.165	3	s
54	4.3.184-185	3	s
55	4.5.7	3	n
56	4.5.13	3	n
57	4.5.64-65	3	a.ph
58	5.1.66-68 p	4	n.ph
59	5.2.138	3	n.ph
60	5.2.139-141	3	s
61	5.2.142-143	5	a
62	5.2.146-147	5	n.ph
63	5.2.149-151	3	n.ph
64	5.2.155-156	2	s
65	5.2.159-160	2	n.ph
66	5.2.167-168	3	n.ph
67	5.2.170-171	3	n.ph
68	5.2.173-174	3	n.ph

# **Hypallage** (Ind.= Induction)

1	Ind.1.131-132	4	n
2	1.1.6	3	n.ph
3	1.1.92	3	n
4	1.2.252-253	2	n.ph
5	3.2.157	3	n.ph
6	3.2.195	3	a

7	3.2.228	4	v
8	4. 5.23-24 p	4	n.ph
9	4. 1.16	3	n
10	4.3.65-68	7	n.ph
11	4.3.102	3	a.ph
12	4.5.43	4	a

13	5.2.153	3	n.ph
14	5.2.157-158	5	a
15	5.2.163	3	n
16	5.2.164	3	v
17	5.2.165	3	a

# **Anaphora** (Ind.= Induction)

1	Ind. 1. 52-55	2	And
2	Ind. 1. 118-119	2	And
3	Ind. 2. 61-62	2	Thou
4	Ind. 2. 77-78	2	O int.
5	Ind. 2. 86-87	2	And
6	Ind. 2. 94-95	2	And
7	Ind. 2. 111-112	2	Madam
8	11.13-14	2	Vincent
9	1.2.62-64	3	And
10	1.2.70-71	2	As
11	1.2.84-85	2	I
12	1.2.155-156	2	AS
13	1.2.159-160	2	O int
14	1.2.200-201	2	Have
15	1.2.275-276	2	And
16	1.1.30-31	2	What
17	1.1.39-40	2	Good

18	2.1.45-46	2	You
19	2.1.49050	2	Her
20	2.1.97-98	2	And
21	2.1.153-155	3	And
22	2.1.248-249	2	And
23	2.1.296-297	2	And
24	2.1.308-309	2	Her
25	2.1.350-351	2	In
26	2.1.374-375	2	That
27	2.1.379-380	2	And
28	3.2.24-25	2	Though
29	3.2.133-134	2	And
30	3.2.146-147	2	The
31	3.2.170-171	2	He
32	3.2.180-181	2	And
33	3.2.231-232	2	My
34	4.1.205-207	3	And

34	4.3.15-16	2	I
35	4.3.55-58	4	With
36	4.3.88-89	2	What
37	4.4.28-30	3	And
38	4.4.64-65	2	And
39	4.5.4-5	2	I
40	4.5.13-14	2	And
41	4.5.39-40	2	Happy
42	4.5. 46-47	2	That
43	5.1.144-145	2	What
44	5.2.13-14	2	Padua
45	5.2.33-34	2	To
46	5.2.42-43	2	Ay
47	5.2.146-147	2	Thy
48	5.2.149-150	2	To
49	5.2.170-171	2	My

# **Rhyme** (Ex: Exit / Exeunt )

1	1.1.3-4	/i:/
2	1.1.64-65	/u:l/
3	1.1.68-69	/wə:d/
4	1.2.75-76	/pædʒuə/
5	1.2.225-226	/ei/
6	1.2.227-228	/əu/
7	1.2.229-230	/ens/
8	1.2.234-235	/iəu/
9	1.2.279-280 Ex	/əu/
10	2.1.199-200	/ju/
11	2.1.276-277	/keit/
12	2.1.323-324	/ei/
13	2.1.326-327	/æt/
14	2.1.330-331	/ætf/
15	2.1.339-340	/fi θ /
16	2.1.369-370	/ər/

17	2.1.402-403 Ex	/ɔi/
18	2.1.410-411 Ex	/iŋ/
19	3.1.13-14	/əfi/
20	3.1.91-92	/dʒiŋ/
21	3.2.114-115	/hə/
22	3.2.147-148	/fə/
23	4.1.145-147 3	/ei/
24	4.2.9-10	/æt/
25	4.2.120-121 Ex	/ju/
26	4.3.55-56	/iŋz/
27	4.3.57-58	/ri/
28	4.3.59-60	/jə/
29	4.4.96-97	/ei/
30	4.4.107-108	/hə/
31	4.5.4-5	/brait/
32	4.5.78-79 Ex	/wəd/

33	5.1.114-115	/fəu/or/tiə/
34	5.1.116-117	/ain/
35	5.1.120-121	/əu/
36	5.1.122-123	/əu/
37	5.1.140-141	/st/
38	5.1.149-150	/eit/
39	5.2.117-118	/əbediens/
40	5.2.163-164	/ei/
41	5.2.174-175	/ɑ:/
42	5.2.176-177	/ut/ or /ut/
43	5.2.178-179	/iz/
44	5.2.182-183	/wə:d/
45	5.2.184-185	/ed/
46	5.2.186-187	/ait/
47	5.2.188-189 Ex	/əu/ or /u/

**Alliteration** freq. /d/: 2; /s/: 12; /h/: 2; /p/: 4; /m/: 17; /l/: 5; /f/: 10; /k/: 9; /t/: 3; /b/: 3; /g/: 6; /w/: 4; /sk/: 1; /n/: 1; /it/: 1; /ei/: 1

1	Ind. 1. 31	/d/	3	28	3.2.145	/g/	2	55	4.3.187	/s/	2
2	Ind. 1. 33	/s/	3	29	3.2.153	/g/	2	56	4.3.188	/w/	2
3	Ind. 1.61	/h/	2	30	3.2.163	/b/	2	57	4.5.26	/k/	2
4	Ind. 1. 67	/p/	2	31	3.2.182	/m/	2	58	4.5.37	/f/	2
5	Ind. 2.135	/m/	3	32	3.2.244	/m/	2	59	4.5.45	/m/	2
6	1.1.5	/l/	2	33	4.1.42	/k/	2	60	4.5.49	/m/	3
7	1.1.59	/m/	2	34	4.1.196	/b/	3	61	5.1.1 p	/s/	2
8	1.1.60	/m/	2	35	4.2.30	/f/	2	62	5.1.44 p	/m/	2
9	1.1.71	/m/	2	36	4.2.31	/f/	2	63	5.1.99 p	/k/	2
10	1.1.136 p	/f/	3	37	4.2.37	/w/	2	64	5.1.125	/m/	3
11	1.1.176	/s/	3	38	4.2.51	/w/	2	65	5.2.5	/s/	2
12	1.1.220	/s/	2	39	4.2.57	/t/	3	66	5.2.12	/s/	2
13	1.2.136	/l/	3	40	4.2.61	/ei/	2	67	5.2.30	/m/	2
14	2.1.104	/m/	2	41	4.2.85	/p/	2	68	5.2.31	/m/	2
15	2.1.226	/k/	2	42	4.2.90	/f/	2	69	5.2.54	/s/	3
16	2.1.246	/s/	4	43	4.2.114	/l/	2	70	5.2.56	/d/	2
17	2.1.349.	/t/	2	44	4.2.115	/m/	2	71	5.2.58	/g/	2
18	3.1.1	/f/	3	45	4.3.3	/m/	3	72	5.2.98	/f/	2
19	3.1.18	/sk/	2	46	4.3.8	/n/	2	73	5.2.124	/s/	2
20	3.1.48	/f/	2	47	4.3.31	/g/	3	74	5.2.151	/s/	2
21	3.1.68	/p/	2	48	4.3.35	/g/	3	75	5.2.160	/l/	2
22	3.2.12	/f/	2	49	4.3.40	/m/	2	76	5.2.161	/s/	2
23	3.2.13	/b/	2	50	4.3.82	/k/	2	77	5.2.163	/s/	2
24	3.2.14	/m/	2	51	4.3.139	/k/	2	78	5.2.166	/t/	2
25	3.2.18	/p/	2	52	4.3.140	/k/	2	79	5.2.183	/h/	2
26	3.2.45 p	/k/	2	53	4.3.143	/k/	2	80	5.2.186	/w/	3
27	3.2.69 p	/f/	2	54	4.3.185	/l/	2	81	5.2.187	/g/	3